



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

2018 - 2019 年度テーマ

R.I. テーマ 「インスピレーションになろう」

R.I. 会長 バリー・ラシン

地区ガバナー 松坂 順一

クラブテーマ 「親睦による、充実したクラブライフを」

クラブ会長 浜中 清



2018年8月1日

第1547回例会

会長 浜中 清

幹事 斎藤 彰悟

本日の卓話

「会員増強・拡大について」

地区青少年奉仕委員会副委員長 平井憲太郎 様

紹介者 潮田幸一 会員

今後の卓話予定

8/8 祭日振替

8/15 定款休会

8/22 「JS バッハ 無伴奏チェロ組曲の魅力」 チェロ奏者 袴田 容 様

紹介者 渡辺丈樹 会員

8/29 「RYLA について」 地区 RYLA 委員会副委員長 嶋村文男 様



8月お誕生日祝

18日 (69才) 斎藤彰悟君

20日 (43才) 松丸 貴君



年間100%出席

大塚 清君 11回 潮田幸一君 4回

山尾尚司君 15回

前回 (7/18 1546 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 2名

筑波大学学校教育学会副会長 山田 順子 様

米山留学生 チュバ・チュン 君

◆ビジター 2名

東京浅草ロータリークラブ 林 英彦 様

東京浅草ロータリークラブ 坂 真太郎 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
46名	1名	2名	40名	3名	93.02%	1544回例会修正 欠席0名・出席率100%

会長報告 <浜中会長>

・中国四国地方を襲いました西日本豪雨災害につきまして、年々この様な予想がつかない大災害が増えてきました。その様な中で、事後の対応が追いつかないことは残念です。広域災害に必要なのは水、食料、トイレとそれを管理するスタッフです。今回の災害はほとんどの地域がハザードマップに載っている地域でした。国は早く管理体制を構築すべきです。

また、今回の災害の義援金について地区からも要請が来ているようで詳しくは、上野社会奉仕委員長より報告があります。続きましては、先日例会後に行われました会長ノミニー推薦委員会にて、岩田会長ノミニーが推薦され承諾頂きました。地区大会があります2020-2021年度です。岩田ノミニーと共に幹事をお引き受け頂きました吉沼会員にも一言ご挨拶をお願い致します。



米山留学生 チュバ・チュン君

幹事報告<斎藤幹事>

- ・7月に入り、上期分年会費並びに米山・財団積立金請求書を配布しましたので納入をお願いします。
- ・次週7月25日(水)の例会は、クラブ定款により休会となりますのでご注意ください。

委員会報告

<親睦・出席委員会 宮崎委員長 丸岡委員発表>

- ・7月28日の「隅田川花火を楽しむ会」が、天竺様ご好意のもと開催されます。残り席8名となっております。ご参加の方は早目に丸岡まで連絡をお願いいたします。

<社会奉仕委員会 上野委員長>

- ・地区より「平成30年7月豪雨」災害支援金のお願いが来ております。よろしくお願いたします。

ニコニコボックス

<浜中会長、斎藤幹事>

- ・山田順子様、本日の卓話宜しくお願致します。

<古谷、宮崎、太田、洞水、天竺、山尾、岩戸、後上、渡辺、藤掛、原田、河村、長沼、園部>

- ・本日の卓話、「発達障がい者の『活躍の場』と『活躍してもらうために必要な配慮』」山田順子様、宜しくお願致します。

<山尾、本間、片岡、中村、松本>

- ・西日本豪雨被災地の一日でも早い復旧・復興

をお祈りします。

<内田、斎藤>

- ・ロシアワールドカップ、フランス優勝おめでとう！

<吉沼>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有り難うございました。

<丸岡、立野、江連>

- ・本日、吉沼委員長、お誕生日おめでとうございます。

卓 話

「発達障がい者の『活躍の場』と『活躍してもらうために必要な配慮』」



筑波大学教育学会副会長

山 田 順 子 様

1. 親の育て方や、本人の努力不足や不摂生が原因ではない。
2. 診断名にこだわるよりも、本人と周囲の特性理解が有効である。
3. 同じ診断名でも、個性は一人一人違う。障がいがその人の全人格を覆いつくしているわけではない。同じ診断名だからといって、同じ対応でよいというわけではない。
4. 早期からの適切な支援があれば、自己肯定感を大きく損なうことなく、個性や能力を生かした活躍も可能。著名人にも発達障がいがあることをカミングアウトしている人たちもあちこちにいるが、有名人でなくとも、社会人としてきちんとやっている人たちも、たくさんいる。
5. 発達障がいがあっても、大学さえ出れば大丈夫！と思っている親もいるが、大学卒業や大学院修了は決してゴールではない。
6. 在学中よりも、むしろ学校卒業後の方が、より困難に遭遇する可能性が高くなる。なぜなら、学校時代のように《毎日いくべき場所（学校や教室など）が決まっていて、時間割がありやるべきことも、それなりにはっきりしている》学校時代の日々とは違い、就職すると、発達障がい者が苦手な臨機応変な対応が必要な場面が多くなる。
7. 周囲の理解や配慮があれば、よい仕事ができる可能性があるのに、それが得られないために、自立できずに引きこもってしまう当事者がいることは、社会全体の損失につながる。
8. 発達障がいがある高校生にも、高校入学後すぐに学費や生活費を稼ぐ必要がある生徒たちが増えている。高校や大学を卒業してから社会に出て初めて働くより、早期に周囲の理解や支援を得て《お金をもらうに値する仕事ができるようになる》ための体験は、自己の特性理解と自己肯定感につながる。
9. 秋田県藤里町での調査結果から、人口1億人のうち、18歳以上の「引きこもり」は1000万人という推計もある。そのうち発達障がい傾向がある人の割合は、2割から3割という推計もあれば、面接調査を実施した体験から7割という研究者もいる。だが、市民ボランティアを組織して発達障がいのある青年の就労支援をしている津富宏（2018）によれば、引きこもっていても、きっかけさえあれば、すぐに働ける人も多い、という。
10. 身近に発達障がいのある子どもがいる場合には、できるだけ早期から、必ずいずれは社会人となる日が来ることも視野に入れて、その子の自己の特性理解を支援し、その子の長所や得意なもの好きなものに目を向け、その子の自己肯定感が大きく損なわれないように、環境調整をするとよい。